

2 駅でのスマートフォン利用に関する調査

武内 寛子 上田 真由子 中村 志津香 芦高 勇氣 和田 一成

1 はじめに

近年、スマートフォン（以下、「スマホ」とする。）・携帯電話を見つめたり操作しながら歩く「歩きスマホ」が社会問題となっています。歩きスマホは列車への接触や線路への転落、お客様同士の衝突に繋がる危険性があるため各鉄道事業者が注意喚起を行っていますが、駅構内で歩きスマホをする人は依然として多いままです。本研究は駅での歩きスマホ防止に向けた効果的な啓発方法の開発を目的としていますが、実態を踏まえたより効果的な啓発方法の開発を目指し、今回は実態把握のための調査を行いました。

2 調査内容と結果

(1) 調査時期・場所・方法

平成 28 年 7 月に A 駅のコンコース（改札内）において、歩きスマホをしている 56 名と歩きスマホをしないで通行している 56 名の計 112 名にアンケート調査を行いました。

(2) 調査項目

① スマホ操作への没頭度

コンコースで歩きスマホをしていた人に、スマホ操作にどれくらい没頭していたかを 6 段階（1：全く没頭していない～6：非常に没頭している）で主観的に評価してもらいました。

② 歩きスマホにより危険を感じた経験

歩きスマホをしたことがあると答えた人に対して、歩きスマホに起因する危険事象の経験の有無について伺いました。

(3) 結果と考察

① スマホ操作への没頭度

歩きスマホをしていた 56 名について操作内容別に比較をしたところ、ゲームをしていた人は 4.2 となり一番高く、SNS をしていた人よりも有意に高くなりました（図 1）。このことから、歩きながら行うゲームは比較的没頭しやすいと言えます。

操作方法別では、文字入力をしていた人の没頭度は 3.5、タッチ等の操作をして

いた人は3.6、画面を見ていただけで手元の操作はなかった人は3.0であり有意差はありませんでした（図2）。このことから、画面を見ているだけでも文字入力という複雑な操作と同程度にスマホに没頭した状態になることが分かりました。

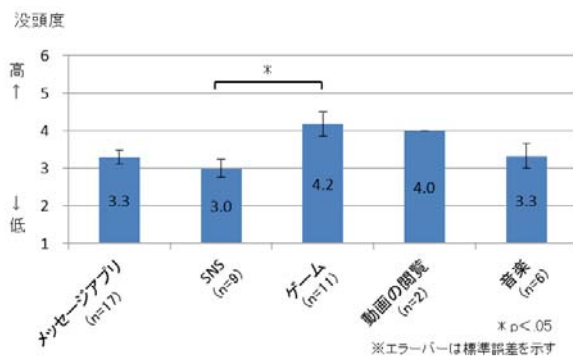


図1 歩きスマホ時の没頭度（操作内容別）

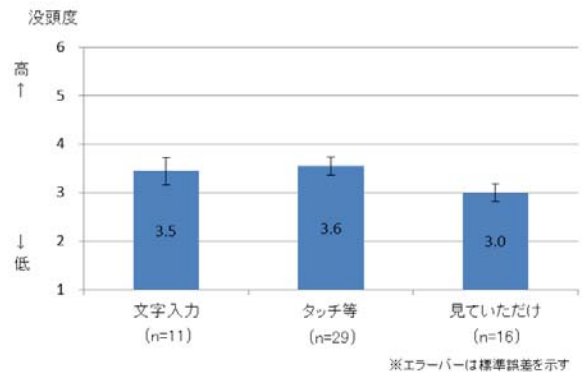


図2 歩きスマホ時の没頭度（操作方法別）

② 歩きスマホによる危険事象の経験

今までに歩きスマホをしたことがあると答えた99名のうち、自分が歩きスマホをしていて人に衝突したことがあると答えた人は5名（5.1%）、衝突しそうになったことがあると答えた人は21名（21.2%）いました（図3）。逆に、自分は歩きスマホをしていない時に歩きスマホをしている人に衝突された経験は14名（14.1%）、衝突されそうになった経験は約半数の52名（52.5%）があると回答しました（図4）。自分が加害者となり人に衝突する、衝突しそうになる経験は被害者となる経験と比べて印象に残っていないことから、自分が周囲の人を危険な事象に巻き込んでいることに気がついていない場合が多いと考えられます。

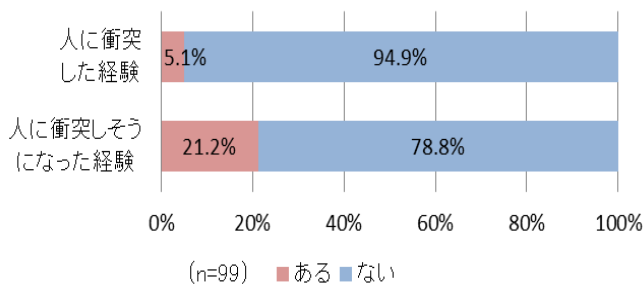


図3 歩きスマホにより人に衝突した経験

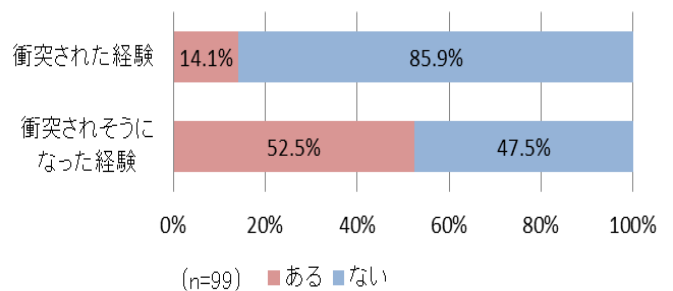


図4 歩きスマホしている人に衝突された経験

3 まとめ

今回は駅構内における歩きスマホの実態調査を行いました。その結果、歩きながらのゲームはスマホへの没頭度が高いことから、周囲へ注意が向きにくくなるため危険性が高いと考えられます。また、画面へのタッチ等単純な操作の場合でも文字入力のような複雑な操作の場合と同程度に没頭していることが分かりました。歩きスマホによる危険事象については加害経験が被害経験よりも印象に残っておらず、自分が歩きスマホをすることで周囲へ危険が及ぶことに気がついていない人が多いことが示唆されました。